

# 宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

## 宮崎県第48週の発生動向

### 全数報告の感染症 (48週までに新たに届出のあったもの)

1類感染症：報告なし。2類感染症：結核 5例。3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 2例。  
4類感染症：つつが虫病 1例。5類感染症：報告なし。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	30歳代	女	肺結核	咳、痰
			40歳代	女	腸結核	腰痛
			50歳代	女	無症状病原体保有者	—
			70歳代	男	潜在性の粟粒結核	咳、痰、発熱
			80歳代	男	肺結核	咳、痰、発熱
3類	腸管出血性大腸菌感染症	宮崎市	0歳	女	患者	水様性下痢、嘔吐、溶血性貧血、急性腎不全、HUS
		高鍋	30歳代	女	無症状病原体保有者	O115(VT1産生)
4類	つつが虫病	小林	80歳代	男	患者	発熱、刺し口、発疹

### 定点把握の対象となる5類感染症

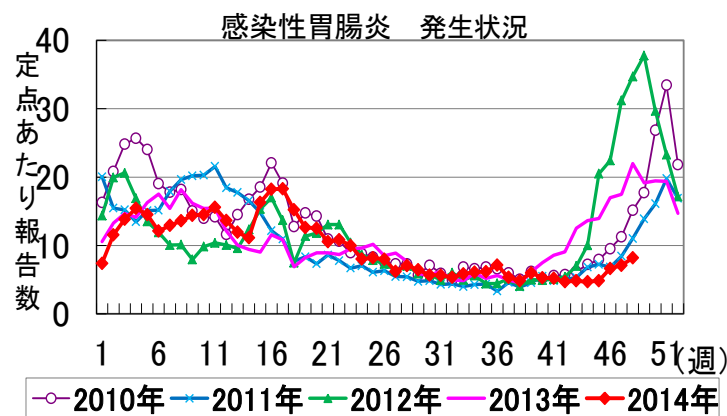
・定点医療機関からの報告総数は593人(定点あたり17.8)で、前週比108%と増加した。前週に比べ増加した主な疾患は咽頭結膜熱と感染性胃腸炎で、減少した主な疾患はRSウイルス感染症とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。

#### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

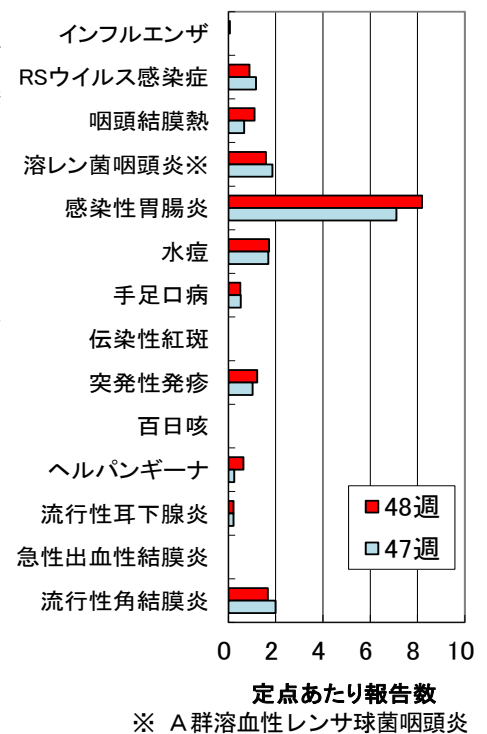
##### 【感染性胃腸炎】

・報告数は295人(8.2)で、前週比115%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値\* (17.0) の約0.5倍であった。年齢別では1~3歳が全体の約4割を占めた。

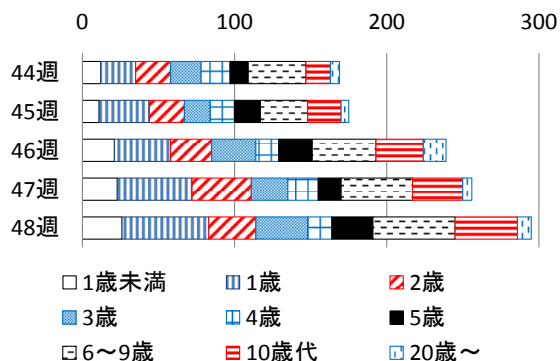
\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値



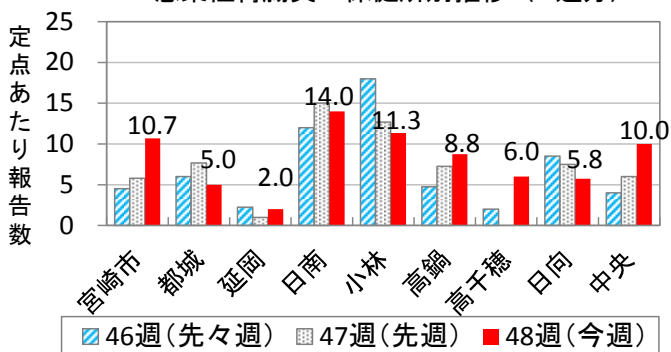
### 《前週との比較》



感染性胃腸炎 年齢別推移 (5週分)



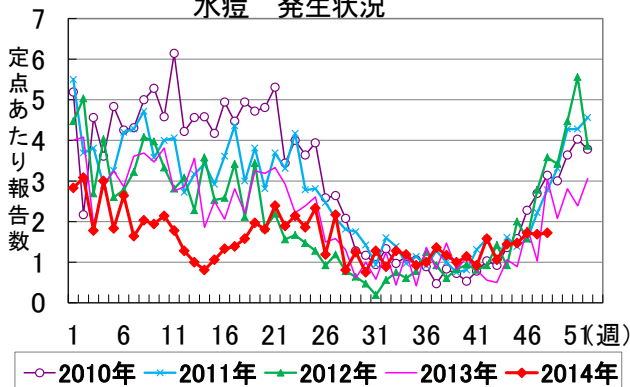
感染性胃腸炎 保健所別推移 (3週分)



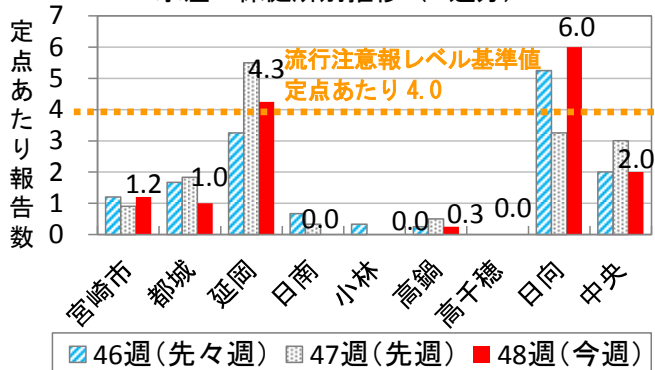
【水痘】

・報告数は 62 人 (1.7) で、前週比 102%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点あたり平均値\* (2.7) の約 0.6 倍であった。年齢別では 2~3 歳が全体の約 4 割を占めた。

水痘 発生状況



水痘 保健所別推移 (3週分)



★流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	水痘(4.3)
日南	なし
小林	なし
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	水痘(6.0)
中央	なし

\*流行注意報レベル基準値\*

・水痘(4.0)

□ 病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成 26 年 11 月 17 日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0~4	女	2014.11.10	気管支炎、下気道炎	咽頭ぬぐい液	2014.11.19
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	20歳代	女	2014.11.10	百日咳疑、感冒症状	咽頭ぬぐい液	2014.11.21
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	10歳代	女	2014.11.10	百日咳疑、感冒症状	咽頭ぬぐい液	2014.11.21
<i>Salmonella</i> Oranienburg (O7:m,t:-)	30歳代	女	2014.11.11	—	便	2014.11.19
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0~4	女	2014.11.18	百日咳、下気道炎	咽頭ぬぐい液	2014.11.25
<i>Salmonella</i> Miyazaki (O9:1,z13:1,7)	70歳代	男	2014.11.21	発熱(39.0℃)、胃腸炎、感染性腹部大動脈瘤	大動脈瘤周囲の膿	2014.11.28

○ 39.0℃の発熱、胃腸炎を呈した 70 代の患者の大動脈瘤周囲の膿から、*Salmonella* Miyazaki が分離、同定された。感染性大動脈瘤は、腹部大動脈瘤の 3%程度に見られ、起因菌としては *Staphylococcus* 属と *Salmonella* 属の報告が多い。サルモネラは動脈硬化の顕著な血管だけでなく、正常な大動脈にも感染するため、血液培養で菌が陰性化しても血管壁に持続感染している可能性を考慮する必要がある (感染症誌 2011 ; 85 : 280-283)

○ 3 名 (4 検体) から百日咳菌 (*Bordetella pertussis*) が検出された。百日咳菌に対する治療では主にマクロライド系抗菌薬が使用され、特にカタル期で有効である。通常、患者からの排菌は咳の開始から約 3 週間程度持続するといわれており、抗菌薬の服用を始めてから 5 日程度で菌はほぼ陰性となる。

## ★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取月日	臨床症状 等	検出材料	検出日
ライノウイルス	2ヶ月	女	2014.11.10	肺炎、急性細気管支炎	咽頭ぬぐい液	2014.11.18
ライノウイルス	2	女	2014.11.19	百日咳疑い、下気道炎	咽頭ぬぐい液	2014.11.26
ライノウイルス RSウイルス	11ヶ月	男	2014.11.24	喘息様気管支炎、39.0℃、下気道炎	咽頭ぬぐい液	2014.11.26
RSウイルス	1ヶ月	男	2014.11.17	RSウイルス気管支炎、38.5℃、下気道炎	鼻汁	2014.11.18
RSウイルス	1	男	2014.11.17	RSウイルス気管支炎、40.0℃、下気道炎	喀痰	2014.11.19
RSウイルス	1	男	2014.11.25	喘息性気管支炎、38.5℃、下気道炎、胃腸炎	咽頭ぬぐい液	2014.11.26

○肺炎と診断された乳児1名、百日咳疑いの幼児1名からライノウイルスが検出された。

○喘息様気管支炎の乳児1名からライノウイルスとRSウイルスが検出された。

○RSウイルス気管支炎と診断された乳児1名、幼児1名と喘息性気管支炎と診断された幼児1名からRSウイルスが検出された。今年、呼吸器感染症と診断された患者から検出されたウイルスではライノウイルスが最も多く、次いでRSウイルスが多い。いずれのウイルスも年齢は1歳未満の乳児が大半を占めており、ほぼ全例で気管支炎や肺炎などの下気道炎を伴っている。

## 📊 全国第47週の発生動向

### □ 全数報告の感染症（全国第47週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	298例				
3類感染症	細菌性赤痢	3例	腸管出血性大腸菌感染症	41例		
4類感染症	A型肝炎	1例	つつが虫病	21例	日本紅斑熱	4例
	マラリア	1例	レジオネラ症	14例		
5類感染症	アメーバ赤痢	19例	ウイルス性肝炎	2例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	10例
	急性脳炎	2例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7例
	後天性免疫不全症候群	22例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例	侵襲性髄膜炎菌感染症	1例
	侵襲性肺炎球菌感染症	22例	水痘（入院例）	3例	梅毒	17例
	風しん	2例	麻しん	2例		

### □ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関あたりの患者報告総数は前週比122%と増加した。今週増加した疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎で、減少した主な疾患はヘルパンギーナと流行性耳下腺炎であった。

インフルエンザの報告数は4,619人(0.94)で、前週比254%と増加した。岩手県(6.2)、福島県(2.8)、神奈川県(2.0)からの報告が多く、年齢別では5歳以下が全体の約20%、6～9歳が27%、10～14歳が30%、15～19歳が4%、20～59歳が16%、60歳以上が3%を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は23,219人(7.4)で、前週比128%と増加した。大分県(19.6)、香川県(15.1)、福岡県(14.3)からの報告が多く、年齢別では1～4歳が全体の約半数を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2014年 第48週(11月24日～11月30日)

疾病名		第47週	第48週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数		4		2			2				
	定点あたり	0.00	0.07	0.00	0.20	0.00	0.00	0.40	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	42	32	7	6	10	5		2		2	
	定点あたり	1.17	0.89	0.70	1.00	2.50	1.67	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00
咽頭結膜熱	報告数	24	40	10	6	10	3		3		8	
	定点あたり	0.67	1.11	1.00	1.00	2.50	1.00	0.00	0.75	0.00	2.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	67	57	24	2	16	4	1	3		4	3
	定点あたり	1.86	1.58	2.40	0.33	4.00	1.33	0.33	0.75	0.00	1.00	3.00
感染性胃腸炎	報告数	256	295	107	30	8	42	34	35	6	23	10
	定点あたり	7.11	8.19	10.70	5.00	2.00	14.00	11.33	8.75	6.00	5.75	10.00
水痘	報告数	61	62	12	6	17			1		24	2
	定点あたり	1.69	1.72	1.20	1.00	4.25	0.00	0.00	0.25	0.00	6.00	2.00
手足口病	報告数	19	18	3	7	1	6				1	
	定点あたり	0.53	0.50	0.30	1.17	0.25	2.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
伝染性紅斑	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	37	44	6	8	12	6	4	4		2	2
	定点あたり	1.03	1.22	0.60	1.33	3.00	2.00	1.33	1.00	0.00	0.50	2.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	9	23	7		6	1		7		2	
	定点あたり	0.25	0.64	0.70	0.00	1.50	0.33	0.00	1.75	0.00	0.50	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	8	8	2	2	2			1		1	
	定点あたり	0.22	0.22	0.20	0.33	0.50	0.00	0.00	0.25	0.00	0.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	12	10	9		1						
	定点あたり	2.00	1.67	3.00	0.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2014年第1週～48週)

2類感染症	結核	231例(5)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	29例(2)				
4類感染症	E型肝炎	3例	A型肝炎	15例	重症熱性血小板減少症候群	11例
	つつが虫病	10例(1)	日本紅斑熱	5例	ボツリヌス症	1例
	レジオネラ症	13例				
5類感染症	アเมอร์バ赤痢	5例	ウイルス性肝炎	2例	カルバペネム腸内細菌感染症	3例
	急性脳炎	5例	クロイツフェルト・ヤコブ病	3例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例
	後天性免疫不全症候群	12例	ジアルジア症	1例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例
	侵襲性肺炎球菌感染症	11例	梅毒	10例	破傷風	1例
	風しん	3例	麻しん	4例		

( )内は今週届出分、再掲